

草みそはぎにてあらひ、また洗じ茶碗に五六杯も、服用すべし。治する事妙なりと、衣関順庵が伝也。」

『薬用植物の新療法』（昭和五年）

「罹病に花、葉を乾燥させ、粉末として服用すれば効あり。下血げけつする人も二三週間服用すれば全治する。犬鼠に咬まれた時、この葉を煎服し且つ局部を洗うと宜しい。」

○溝は清音火・濁音か。みそか・みぞか

『日本書紀』・斉明四年十一月（北野本訓）

「長（とほ）く渠水（ミツ）を穿（穂）りて、公の糲を損（おと）しつゝやすこと」

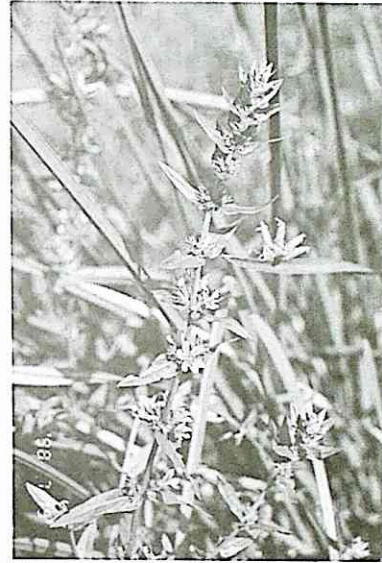
『新訳華嚴經音義私記』

「慾度溝血 溝古反 美序 深四尺」

『伊勢物語』・みそか・みぞか

「紀の国の千里の浜にありける。いと面白き石奉れりき。大幸きの後、奉れりしかば或人のみさうしの前のみそに据えたりしを島好みたまふ君なり。この石を奉らん との

たまひてすいしんとねりして、とりに遣はす。」



中蒲原郡横越村阿賀野川（1998. 7. 19）

雪国の植物 ユキツバキ19

ユキツバキに寄生するネナシカズラ？

石 沢 進

ネナシカズラは、色々な植物に寄生し、その宿主も記録されている（1937、1988）。しかし、ユキツバキに寄生する

かどうか、まだ確認していない。機会のある限り注目しているが、明らかに寄生している証拠をつかんでいない。

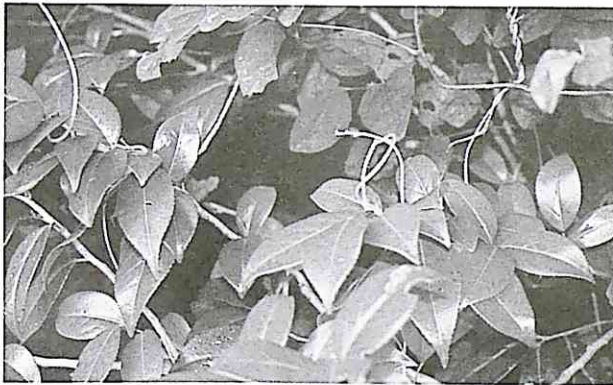


写真1

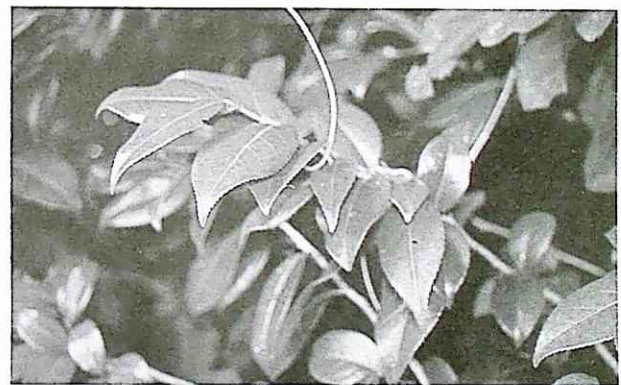


写真2



写真3



写真4

写真1~4 ユキツバキの枝にまきつくネナシカズラの茎 北蒲原郡笹神村五頭山 255m（1999. 7. 11）

1999年7月に北蒲原郡五頭山<魚止滝道>に登る際に、ユキツバキに絡み付いているネナシカズラを見かけたが、ユキツバキの枝葉に接しているだけであり、ユキツバキの組織の中に寄生根が侵入している状況に至っていないようであった。まだ、ネナシカズラが伸長の途中で、組織の中に侵入する直前のような印象を受けた。ネナシカズラの茎の一部が肥厚して他の植物に侵入するための寄生根の初期段階が見られたからである。(写真1~4) その後、その寄生根が伸びてユキツバキの茎葉に侵入したかどうか確かめることが出来なかったため、ユキツバキにネナシカズラが寄生しているという、事実を確認するに至っていない。しかし、シダ植物にも寄生する報告(巨理 1937)もあり、ユキツバキに寄生しても珍しいことでないかもしれない。もし、確実に寄生している事例があるようでしたら御教示頂きたい。

ユキツバキにマメダオシが寄生しているとみられる例を、一度みたことがあるが、その場合は若木で春先伸び出した枝が成長し、二度目に伸長した若枝に寄生していた。写真5、6は新発田市滝谷焼峰山麓(1975 7 11)における、その寄生状況である。マメダオシの場合もツバキの茎の組織内に侵入していることを、組織の断面で確認していないが、ツバキの枝上で開花していることや、花の着いている前後のマメダオシの茎が太くなっていることから、寄生根が侵入している可能性が高とみられる。



写真5

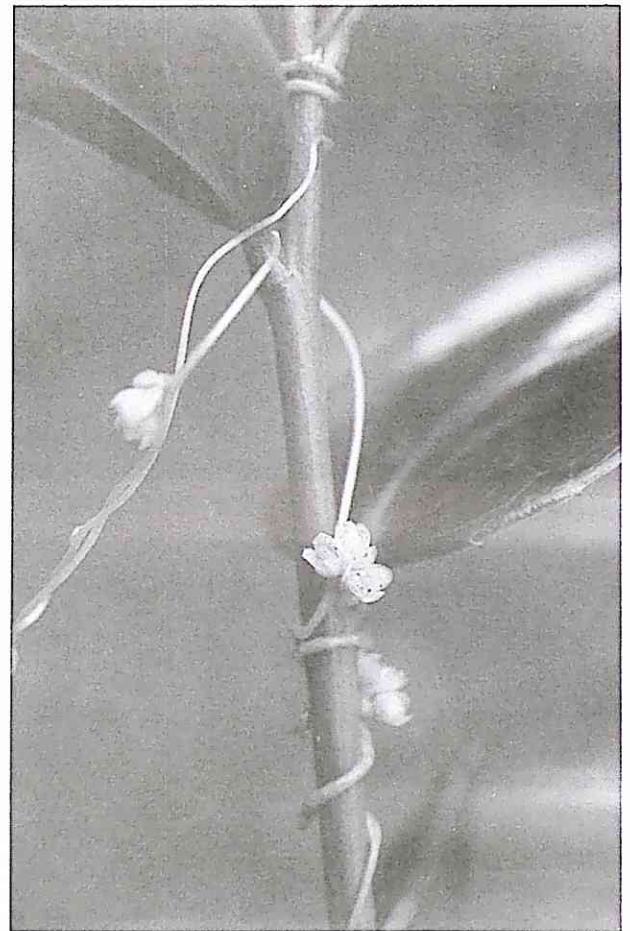


写真6

その他ツバキに寄生する植物

ヤブツバキは、南ではヒノキバヤドリギがよく枝に寄生しているのを見かけるが、北ではヒノキバヤドリギの冬越しができないようで、県内ではそのような例を見ていない。雪国のユキツバキに寄生することも確認していない。ヒノキバヤドリギは、ツバキ以外の常緑樹48種、落葉樹30種に寄生し、常緑樹の方が多いことが記録されている(越智・里見 1953)。県内にはヤドリギやホザキノヤドリギなども分布しているが、いずれもツバキ類の寄生については、確認していない。いずれも高木に寄生する種類であるので、低木のユキツバキの寄生は無理であることが予想される。

また、ユキツバキと他の生物との係わりにも興味を持っているが、お気付きの情報をよせて頂ければ幸である。

越智一男・里見信生 1953 北陸の植物 2(3):49-51.

江崎真三志 1958 ネナシカズラの寄生 採集と飼育 20(1): 6.

長野菊次郎 1895 「ヒノキバヤドリギ」ノ寄生 植物学雑誌 9(106):463-464.

巨理俊次 1937 ネナシカズラ属植物の羊歯植物寄生 動物及植物 5(5):1055-1056.

Zaroug, Hohamed S. and 伊藤浩司 1988 ネナシカズラの寄生範囲と作物の感受性 雑草研究 33(2):129-135.